

【高等学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立牛津高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果によると、生徒の社会性の高まりが確実にみられた。地域と連携した活動への取組を強化させたことが結果に結びついたと考える。次年度はこれらの活動をより深化させ、生徒の主体性伸長へとつなげたい。</li> <li>地域と連携した活動は、生徒の地域への関心を確実に高めている。引き続き、参加する生徒の裾野を広げるとともに、地域の課題発見・解決について思考を深め地域活性化にさらに意欲的に取り組めるよう、行政機関等と連携しながら具体的活動を考えたい。</li> <li>学校魅力強化委員会においては、本校の教育活動等について熱心に議論がなされた。次年度は、魅力強化のための具体的なプロジェクトチームを設定し運営していくスタイルも考えていきたい。</li> </ul>
------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇県内唯一の家庭科専門校として、衣・食・ヒューマンサービスに関するスペシャリストを育成する。</li> <li>〇生活の質の向上に関する専門的知識や技能を生かし、地域と様々に協働しながら、学校及び地域のさらなる活性化を目指す。</li> </ul>
----------------------------	---

アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
<ul style="list-style-type: none"> <li>①生活の営みに関することに興味があり、専門性の高い学びに取り組みたい生徒。</li> <li>②何事にも積極的に挑戦し、学び続ける意欲のある生徒。</li> <li>③思いやりを持ち、他者や地域のために役に立つことをしたい生徒。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①3年間を通して、衣生活、食生活、ヒューマンサービスに携わるスペシャリストからの指導を受けることで実践力を養います。</li> <li>②学校設定科目である「起業家入門」において、地域企業等と連携して商品やサービスの開発をおこない、発想力や企画力、表現力を磨きます。</li> <li>③「総合的な探究の時間」や「課題研究」において、地域と協働しながら、将来の自分の在り方・生き方を見据える活動に取り組みます。</li> <li>④職業人として必要なスキルや、豊かな人間性を育むために、就業体験やボランティア活動を充実させます。</li> <li>⑤ファッションショーや音楽劇、食事(松花堂弁当等)や服飾作品(草木染や佐賀織作品等)の販売など、日頃の学習の成果を地域に発信する機会を設けます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①牛津高校で得た生活に関する専門的な知識と技能を、人々の豊かな暮らしの実現のために生かすことができる人材を輩出します。</li> <li>②生活や社会の様々な問題解決に向けて、他者と支え合いながら考え行動する力を培います。</li> <li>③地域社会の活性化に貢献するために必要な、主体性や表現力、創造力を育成します。</li> </ul>

4 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いを認め、支え、高めあう学びのサイクルの構築</li> <li>・生徒の主体性伸長の支援</li> <li>・生徒の進路希望実現につながる教育の質の向上</li> <li>・地域と様々に協働しながら、学校及び地域のさらなる活性化</li> </ul>
------------	--

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		学校関係者評価
				評価	評価	評価	評価		意見や提言
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇アクティブラーニング型の授業やICT機器を活用した授業の推進による学習習慣の定着</li> <li>〇基礎学力の向上</li> <li>〇起業家マインドの育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇アンケートで「学校で行われている授業で自分は主体的に取り組んでいる」「自分は、授業以外の学習や校外学習を主体的に行っている」「誰かにいわれなくても自分から学習する」と答えた生徒を80%以上にする。</li> <li>〇学力診断テストの学習力レベルが前年度より向上する生徒を70%以上にする。</li> <li>〇「起業家マインド(企画力、発想力、プレゼン能力など)が身につけている」と肯定的に答えた生徒65%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科や学科を超えての相互授業見学を実施する。</li> <li>・各科で「主体的・対話的な授業の実践」に向けて評価の観点を年度当初に確認し、互いの授業参観の機会を利用して授業の工夫や改善について考える機会を持つ。</li> <li>・「基礎力診断テスト」のデータを分析した情報を職員間で共有し、課題の指導を行う。</li> <li>・「ホームプロジェクト」「課題研究」「起業家入門Ⅰ・Ⅱ」をはじめとしたすべての授業を通して起業家マインドの育成を図る。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>教務主任</li> <li>各教科・学科主任</li> <li>進路指導主事</li> </ul>	
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会的な、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</li> <li>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇学校では豊かな心を育成する教育が行われていると答えた生徒90%以上</li> <li>〇「他者を理解し、思いやりをもって人間関係を形成できた」の質問に対して「分からない」の回答率減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性に関する指導、薬物乱用防止、佐賀を誇りに思う講演等を実施する。</li> <li>・生徒会等を中心にクラスで話し合う機会を学期1回実施する。</li> <li>・学校生活アンケートを年間2回実施し、組織的にいじめの早期発見・早期対応を行う。</li> <li>・問題が発生した場合は、迅速に対策会議を開催し、組織的な対応を行う。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>教務主任</li> <li>保健主事</li> <li>生徒指導主事</li> <li>教頭</li> <li>学年主任</li> </ul>	
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●望ましい学習習慣と食の自己管理能力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇ほぼ毎日(週に5回以上)朝食を食べている生徒の割合を85%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食の大切さについて、保健だよりで発信する。</li> <li>・食に関するアンケート調査を行う。</li> <li>・家庭科の授業と連携し、望ましい学習習慣について考える機会を持たせる。</li> </ul>					保健主事	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。定時退勤日を週1日以上設定することや、長期休業中に学校閉庁日(4日以上)を設定すること。また、職員朝礼の短縮化(朝礼時間を5分程度とする)を実践する。部活動休業日については、原則週2日以上設定する。また、時間外在校等時間が45時間を超える職員数を、月平均10名以下にする。さらに、職員の平均年休取得日数を12日以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤日を設定しやすいように、行事を精選する。</li> <li>・8月10日(土)から8月31日(土)までは、学校行事等を減らし、学校閉庁日等と併せて、休暇を取得しやすい環境を作る。</li> <li>・日報を充実させて、職員朝礼時の説明事項を削減する。</li> <li>・ICT利活用を推奨すると共に、業務や行事の見直しや、業務の標準化を行い、職員の業務負担を軽減する。</li> </ul>					管理職	
●特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇特別支援教育に関する教員の意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇特別支援教育に関する意識が向上したと回答した教員60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育に関する研修会の実施</li> <li>・ケース会議の開催、関係者間での情報共有</li> </ul>					保健主事 特別支援コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		学校関係者評価
				評価	評価	評価	評価		意見や提言
★唯一無二の誇り高き学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>★学校運営協議会の実践的な展開</li> <li>◎★地域と連携した教育プログラムの魅力化</li> <li>★志願者数を令和6年度選抜より10%増やす。</li> <li>★県外からの令和7年度入学者数を2名以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★校内委員会を年度当初に開催し校内組織体制を整える。</li> <li>★コンソーシアムの運営規約の策定がきている。</li> <li>★令和7年度プロジェクトの計画が立っている。</li> <li>★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合85%以上、教職員の割合90%以上</li> <li>★アンケートの『主体性に関わるウェルビーイング』に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合65%以上、『社会性に関わる自己認識』に関する項目で肯定的に答えた生徒の割合65%以上</li> <li>★次年度より評価に利用する「育てたい力」を測るルーブリックの完成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内組織委員会を開催し学校魅力強化委員会との連携を図る。</li> <li>・学校魅力強化委員会を年6回開催し、学校のプロジェクト実施に向けて協議するために、コンソーシアムの働きを持つものに移行させる。</li> <li>・カリキュラムポリシーに基づいたカリキュラムをカリキュラム委員会で検討する。</li> <li>・「育てたい力」のルーブリックを作成する。</li> <li>・課題研究や起業家入門などの授業と地域をつなぎ生徒たちの活動を深化させる。</li> <li>・地域連携講座を実施し、起業家入門Ⅰの地域課題解決につながる流れを作る。</li> <li>・家庭クラブを中心に、夢つむぎネットワークと協働して牛尾山の活性化に取組み、2月末の梅まつりで各科の成果を示す。</li> <li>・ボランティアスピリッツ・アワードへ応募する。</li> <li>・学校紹介の動画を作成し、学校PRの資料を充実させる。</li> <li>・体験活動・地域連携活動を充実させ、中学生に情報発信を行う。</li> <li>・近隣の小中学校で生徒による家庭科の出前授業、授業補助を実施する。</li> <li>・全国募集に向けての準備として下宿先の確保に向けて動く。</li> <li>・食品調理科の授業の集団給食で外部の人に食べに来てもらう機会をつくる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>主幹教諭</li> <li>主幹教諭</li> <li>家庭科主任</li> <li>生徒指導主事</li> <li>主幹教諭</li> <li>教務主任</li> </ul>	

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 ★...唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
----------------	---